



和歌山城天守閣 (提供:和歌山市観光協会)

和歌山信愛中学校高等学校

学校がある場所は過去に何がおこり、未来に何がおこるのか？
ボーリング試料から土地の過去・現在・未来の姿を考える

ボーリング試料で学校の地史を探る

和歌山県代表として全国総文に出場

2022年8月、和歌山信愛中学校高等学校科学部の地学班は、「文化部のインターハイ」こと第46回全国高等学校総合文化祭(とうきょう総文2022)に和歌山県代表として出場。「秘密の地下28m」と題した発表では、校舎の建て替え時に採取されたボーリング試料を用い、堆積物の特徴や炭素14年代法から学校の地が約1万～7000年前は海であった可能性が高いことや、南海トラフ地震を想定した液状化実験の結果を紹介した。

「発表前はめちゃくちゃ緊張しました」という2年の前川六花さんだが、練習の成果もあって「いざ始めると集中できて、実力を出せたと思います」と満足気だ。その手ごたえどおり、審査員からも「興味深い研究」「今後もじっくり調べてほしい」と高評価を得た。



とうきょう総文2022で発表したメンバーと佐藤佳子教諭(右端)

あふれるポジティブな姿勢

また、審査員の「タイトルもおもしろい」という言葉に、2年の川端花奈さんは「そこを入り口として私たちの研究に興味をもってもらおうと思っていたので、ねらいどおりでした」と笑う。同じ2年の服部玲菜さんは「県代表としての発表に『責任重大だ』と感じたので、自分たちで考えられる限りたくさん準備をしました」と言う。

この点について、顧問の佐藤佳子教諭も「本当に皆ポジティブで、自主的に考え活動できています。昨年の和歌山総文でも、私は修学旅行の引率などで直接指導できなかったのですが、自分たちでしっかり準備をして、優秀賞を受賞しました」と称える。

生徒たちも「学校では地学の授業がないので、この研究がなかったら地学に触れる機会はありませんでした。今回の取り組みは視野を広げるよい機会になりました」(前川さん)などと、研究に向かうポジティブさにあふれていた。(個別助成)



和歌山県高校総合文化祭 自然科学部 地学部門 優秀賞受賞



とうきょう総文2022に和歌山県代表で発表



和歌山大学 此松教授の指導



ボーリング試料



●実施担当

佐藤佳子 教諭

●活動のモットー

生徒自身の「知りたい」「やってみよう」という気持ちを尊重する。本当は色々口出ししたくなるが、生徒を信じて我慢している。

学校概要



国立大大理系学部や医歯薬系学部への進学をめざす中高一貫の「医進コース」を設置するなど、理系教育にも力を入れる私立女子校。

設立: 1946年
生徒数: 中学生287名 高校生579名
所在地: 和歌山県和歌山市屋形町2-23

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索